

五劫院 (ごこういん)



①歴史・概要

東大寺復興に尽力した重源上人(1121～1206)が創建したと伝えられる寺院です。

本堂と表門は奈良県指定有形文化財で、ともに棟札から建立年代がわかります。

本堂は元和10年(1624)に建立されました。寄棟造で、堂内は手前を外陣、奥中央を内陣、内陣両脇を脇陣とします。各部屋境に中敷居(床より高い敷居)や格子戸の結界を設けるなど、古式を伝えています。寛永22年(1645)に建立された表門とともに、保存状態がよく、貴重な建物です。



②見どころ:木造五劫思惟阿弥陀仏坐像(もくぞうごこうしゆいあみだぶつざう)

五劫院の本尊です。頭髮がアフロヘアーのように伸びた姿が特徴的で、類例の少ない重要な古像です。鎌倉時代の作として重要文化財に指定されています。

法蔵菩薩が、五劫という非常に長い年月、生きとし生けるものを救うためひたすら思惟をこらし、阿弥陀如来に生まれ変わった瞬間の姿を表しています。寺伝によると、重源上人が善導大師(613～681)の作を宋(中国)からもたらしたといわれます。

重源上人(ちょうげんしょうにん)

保安2年(1121)～建永元年(1206)。治承4年(1180)、平重衡の兵火で東大寺大仏殿が焼け落ち、大仏も大破しましたが、重源上人が復興の勧進活動を進め、文治元年(1185)に大仏開眼供養、建久6年(1195)に大仏殿落慶を果たしました。

重源上人は、宋(中国)に3度渡り、建築や美術工芸品の新しい様式をわが国に伝えたことでも重要で、歴史上大きな足跡を残しました。

境内には、後ろを振り返る珍しい姿の「見返り地蔵」が祀られています。永正13年(1516)の銘のある石仏です。

江戸時代に大仏を復興した公慶上人(1648～1705)のお墓(五輪塔)もあります。

